

# 東海民放クラブだより

## 第29回カメラ部会作品展

阪田晃（THK）

東海民放クラブカメラ部会は昭和63年5月の東海民放クラブ設立と同時にカメラを趣味にしている者がカメラ部をスタートさせました。

2年後にはメンバーから作品の発表の場を持ちたいとの希望が出され、第一回の作品展が開催されました。

当時は一年間テーマを決めて撮影に臨み、その集大成として年末に作品展を開催し、お互いの技量を高めてきました。

テーマとしては「水辺の風景」「わが町わがふるさと」「童謡の世界」「私の視点」などで22回まで開催しましたが、さすがにテーマ選びに行き詰まったことと応募を断念する部員が増えてきたこともあって、平成24年の第23回作品展からはテーマは自由とし、初心者でも気楽に参加できる「身近な出来事」「海外旅行の思い出」「花鳥風月」「祭りの情景」など何でもありの作品展とし現在に至っています。

作品展の前にはクラブの指導を

お願いしている写真家鈴木智明先生と二度にわたって勉強会を開催し、各自の作品の点検と出品作の選定を依頼し、作品展に備えています。

作品展の入場者数はテレビで取り上げられることもあって、毎年1500名ほどで、会場では撮影場所、撮影技術、中には生まれ故郷の祭りの写真だから是非購入したいなどの問い合わせや、旧交を温める人もあり、作品展の意義を感じています。

今回は92歳の大ベテランからスマホ撮影程度の初心者クラスまで、女性2名を含む27名、60作品が半切又はA3の大きさに展示されました。

会場は名古屋の中心部栄地区の区役所美術展示コーナーで、場所柄12月の1週間を押さえるのは毎年大変です。

今年の作品展では石川県「のと鉄道」のトンネルの瞬間を撮影した作品、動物の表情をアップで表現した「貌」、普段散歩している公園の秋景色を表現した「秋色」、愛知県愛西市・立田池の「寒朝氷花」などが好評でした。

今回の作品展は、節目となる第30回を迎えます。これを機に、デジタル化で女性が気楽にカメラを楽しむ時代でもあり、部員の高齢化は共通の悩みですが、少しでも部員増に結び付けたいと考えています。

また、「日本民放クラブ・全国写真の会」の発足も、日頃カメラを趣味とする者にとっては大いにモチベーションを高めてくれると考えています。

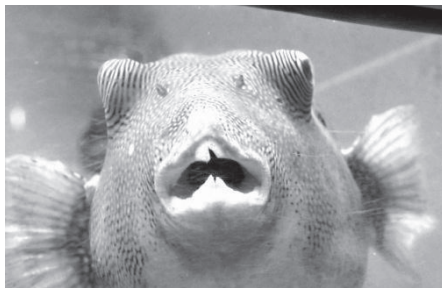
「カメラのある生活」をモットーに新年号向け、2019年12月3日（火）から8日（日）までの発表会に向けて部員一同の一年が愈々始まります。



のと鉄道～石川県～  
秋山和雄（THK）



寒朝氷花～愛西市・立田池～  
設楽 清（THK）



「貌」～蒲郡市～  
蔵本坦伸（THK）



秋色～白鳥庭園～  
草野 洋（THK）